

平成21年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A2	取組 名称	植物園が有する公益的機能の評価と経済的数値化
研究代表者：		公共政策学部 (研究科)	准教授：佐野 亘
研究担当者： 京都府立大学 (下村孝、池田武文、田中和博、高原光、福井亘) 外部分担者・協力者 (京都府立植物園園長 松谷茂、 同次長 近藤雅史)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名) 京都府立植物園			
【研究活動の要約】			
<p>この研究の目的は、京都府立植物園がどのような社会的意義を有しているのかをあきらかにし、さらにそれを、できれば経済的な指標を用いて (たとえば、〇〇円というようなかたちで)、その意義の大きさを市民のみなさんにも、わかりやすく伝えられるようにしたい、ということである。そのために、植物園が有している学術的な価値はもちろんのこと、北山地区で果たしている景観的な役割、また植物園が有する独自の生態系や貴重種、さらには、植物園への入場者にとっての癒しの機能などを評価したいと考えている。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>本年度は、基本的なデータ収集などに力を注ぎ、以下の成果を挙げる事ができた。ひとつは、GISを用いて植物園の全体像 (まとめり度など) を数量的に評価できたことである。二つ目は、植物園が有している癒しの機能を把握するために、来園者について調査をおこなった結果、植物園のなかでも場所によって、異なった層の人々が異なった目的で利用していることがあきらかとなった。三つ目に、府立植物園に植樹されているブナ科の樹木を対象として研究をおこなった結果、温暖化などの気候変動によって、どの種がどのような影響を受けるかがあきらかとなった。このような研究をおこなうことを可能としているのは、植物園が多様な種を植栽しているからであり、その学術的な意義は高い。四つ目に、植物園にやってくる鳥類と、来園者の関係についても研究をおこなう事ができた。植物園は単に植物の生態系を豊かにしているだけでなく、鳥類にとっても大きな役割を果たしており、この点についてもさらなる研究が必要であると思われる。最後に、北山地域において植物園がどのような景観上の役割を果たしているのかについても、歴史的な資料をもとに、研究をすすめている。かつて農業がおこなわれていた地域が住宅地にかわりつつあるなか、植物園は貴重な緑であることがわかった。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>本年度はまだ研究にとりかかった段階で、すぐに還元できる成果はありませんが、下記の問い合わせ先にお尋ねいただければ、現段階での研究成果をお伝えしたいと思います。</p>			
【お問い合わせ先】 公共政策学部 准教授：佐野 亘			
Tel: 075-703-5171		E-mail: sano@kpu.ac.jp	

京都府立植物園

- ・ 学術的価値
- ・ 癒しの機能
- ・ 生態系の多様性（植物、鳥類など）
- ・ 都市の緑としての役割（北山地域）
- ・ その他

⇒ これらを把握するための手法の開発、データの収集・蓄積

+ こうした価値や意義を市民にわかりやすく伝えるための活動

↓

今後はさらに、これらのデータをもとに、その価値を数量的に評価

↓

そのなかで、可能であれば、経済価値に置き換えてみる試みも